

「ひと」のチカラを育むまち ～輝く人づくり～

7 若者が集うまち

1 10年後に目指したい将来像

自分らしく生きる・活動する若い世代が増え、三田なら「心豊かな暮らし」や「自己実現」ができるというイメージが市内外で醸成されることで、若い世代の転出減、転入増が図られ、また、産官学民連携による地域価値向上により、人口減少下であっても活力が維持されています。

2 10年後に避けたい三田の状況

3 10年後に目指したい三田の状況

取り組み

A	人口減少や少子化の影響により市内大学等がその規模を縮小することによる若者の減少や官学連携機会が喪失しています。	➡	まちで活動する学生が増え、市民・企業が学生を支援しており、大学側もその状態を積極的に評価・連携しています。	①
B	人口減少や少子化に伴い、地域で活躍する若い世代が減少することで、若い世代のコミュニティが育たず若者にとっての魅力がないまちとなっています。	➡	若い世代が「やりたい」ことにチャレンジでき、学びや活躍の場を得られるフィールドとして三田が認識され、市内外の若者が集まっています。	②
C	住民の世代交代が進まず、オールドタウン化が進行し、便利施設撤退や公共サービスの水準低下などにより、まちが負のスパイラルに入っています。	➡	移住者が中古住宅に入居、高齢者の住み替え等住宅ストックが活用され、都市のスポンジ化抑制、便利施設や公共サービスが維持されています。	③
D	複雑化する社会課題に対して主体ごとに既存の対応を継続することで、総合的な効果が生まれにくい社会構造となっています。	➡	産官学民が枠を超えて連携・交流し、共創によるアイデア・活動が生まれており、地域価値や活力の向上が図られています。	④
E	若い世代を中心とした社会減や出生率の低下などにより生産年齢人口の割合が減少し、地域活力が低下しています。	➡	一定割合の生産年齢人口が確保でき、活動人口についても増加していることで、地域がますます活性化しています。	⑤
F	人口減少が進行し、三田に関係ある・興味ある市外の若い世代の関わりもなくなり、地域コミュニティが維持できなくなっています。	➡	市内への通勤通学者や市外への転出者など三田に関わりがある人が継続的に三田に関わり、人口減少下でも活気が維持されています。	⑥

5 成果指標

新規・継続	取り組み	指標名	単位	指標の目指す方向性	累計・単年度	基準値(基準年)	目標値(R8)	指標の算出方法・算出根拠
新	①②③	未来を担う若者指数	-	↑	単年度	0.63 (R2)	0.7	15～19歳人口の10年後残存率 (0.63 : R2年25～29歳人口5259人←H22年15～19歳人口8372人)
新	②④	地域で実装されている学生等若者のプロジェクト数	件	↑	累計	2件 (R2)	30件	人材育成プログラム等をきっかけに市内で実装できたプロジェクト数
新	③	移住相談窓口相談件数	件	↑	累計	24 (R2)	500件	移住相談窓口「Sanda住まいる」で取り扱った相談件数(対面、電話、メール、オンライン)
新	⑤	出生数	人	↑	単年度	621人 (R2)	700人	1年の出生数

◆主要な条例・規則◆

◆関連計画◆

さんだ移住・定住促進アクションプログラム

4 取り組み

市民

- ◆学生など若者のチャレンジ・活動を支援します。
- ◆住宅は社会的な公共財という意識を持ち、次の世代に受け継いでいきます。
- ◆活発に交流を行い、自分ごととして地域課題の解決アイデアを共創し地域価値を高めます。
- ◆一人ひとりがSNSなどで三田の魅力を発信します。

事業者・団体等

- ◆学生など、若者のチャレンジ・活動を支援します。
- ◆市民、他企業と交流を活発に行い、自分ごととして地域課題の解決アイデアを共創します。
- ◆三田の立地環境や魅力を発信します。

行政

① 学生がまちをフィールドに自己実現ができる「学びの都(まち)・三田」の整備推進

「学生が成長できるまち三田」を目指し、学生がまちなかで企業・地域・行政などさまざまな人とつながり、まちをフィールドに活動できる環境整備(まちなか拠点機能の強化、企業や地域とのマッチング等)を行います。市の事業でも企画から学生の参画を積極的に促します。こうした環境が評価され、大学や学生から選ばれるまちとします。

② 若い世代に魅力ある「若者が集うまち」の形成(若者の定住推進)

自分と社会課題との接点を知ることで、自分らしく生きる・働くことに気付き、行動(まちづくり・起業)につながるプログラムの実施、ベンチャーやソーシャルビジネスの起業や新規就農の支援、ベンチャー企業等の誘致などにより地域で活躍する若者を増やし、人や経済が域内循環する活動的な「若者が集うまち」三田のイメージを形成します。

③ 住宅ストックを中心とした積極的な移住施策の展開(若者の移住推進)

若い世代の移住を促進するため、市民(さんだ住まいるチーム)が積極的かつ効果的な広報を行うとともに、関係機関との連携等により住宅ストックの円滑な利活用を促進する仕組みを構築します。また、地域との円滑な情報共有を図り、積極的に移住者の受け入れを支援します。

④ 産官学民連携の活性化

連携する目的・効果を明確化することで、企業や大学が地域連携する意義やメリットを持てるようにするとともに、大学等が持つ知財を産官民に移転する仕組みや拠点の構築をはじめ、産官学民が持つ強みを互いに共有することで地域価値を高めます。また、地域課題を解決するアイデアや活動を共創する仕組みの構築や拠点を整備します。

⑤ 新しい働き方の推進と出産・子育てを支援する仕組みづくり

自分にあった暮らしをする若者が増えるよう、新しい働き方(テレワーク、サテライトオフィス等)支援を行います。また性別に関わりなく誰もが暮らしやすく出産・子育てに理解ある地域・職場づくりや若者のコミュニティ形成等による出会いの機会創出、子どもを持つことに明るい希望を持てるライフデザイン構築支援など少子化の進行を緩和します。

⑥ 関係人口の増加による地域の活力維持

若い世代が積極的に地域と交わり活動することで三田に対する愛着を育み、継続的に地域活動に関わる、三田の産品を購入してもらうなど関係人口を増加させます。これにより地域の活力維持を図ります。